■高木壬太郎 牧師，教育家。日本のメソジスト派を指導し，青山学院長。明治キリスト教界最大遺産「基督教大辞典」。

たかぎみずたろう

禁門の変・・・1864＝ 遠江国榛原郡中川根村上長尾で，里正・医師の末裔の農家高木源左衛門の長男に生まれる。

明治維新・・・1868＝ 4歳：

戊辰戦争終・・・1869＝ 5歳：河村半山に就いて孔孟の書を学び，

廃藩置県・・・1871＝ 7歳：父や伯父(八木又左衛門)に啓発されて，福沢諭吉の著書に親しみ始め，

明治6年政変 1873＝ 9歳：

佐賀の乱・・・1874＝10歳：長尾学校(智満寺)に入学。

三つの反乱・・・1876＝12歳：新築移転した長尾学校開校式で，生徒を代表して祝詞を述べる。

西南戦争・・・1877＝13歳：長尾学校下等小学全科を修了し，掛川の蘭学者岡田清直の家塾に入る一方，掛川学校へ通う。

大久保暗殺・・・1878＝14歳：父の反対に伯父を説得して許しを得，県下最高唯一の学府静岡師範学校(一等小学師範学科)に入学。

沖繩県編入・・・1879＝15歳：新設の高等師範学科に転入。天才的な文章家山路弥吉と出会う。

・・・・・・・1880＝16歳：政治を志し，慶応義塾遊学の機を待つが，県会で派遣中止。詩文雑誌(呉山一峰)を創刊。

明治14年政変 1881＝17歳：特別優秀の成績で卒業し，御殿場村立中郷学校へ校長として赴任。

新体詩抄・・・1882＝18歳：自由民権運動に傾き，改進黨に共鳴，御厨懇親会を主催。上御厨教育会会長を兼任。

岩倉具視没・・・1883＝19歳：政談演説会場で興奮し，辞任するが，

岩倉事件・・・1884＝20歳：静岡県より功績を認められて昇任し，小学校巡回訓導に就く。米国行を企てるも果せず。

内閣発足・・・1885＝21歳：最愛の母を失い，静岡県衛生課御用掛に転職。煩悶し静岡メソジスト教会の扉を叩く。母の遺訓で結婚，

帝国大学始・・・1886＝22歳：長女が誕生直後に死去。静岡の同志の挫折と奮闘に，牧師平岩恒保から受洗すると，伝道者たらんと，

国民之友始・・・1887＝23歳：三島小学校首座訓導に転任するも辞し，カンディに就いて英語を学び始め，

初の対等条約 1888＝24歳：長男が誕生。基督教演説会で「基督教と進化説」を弁じ，静岡教会の福音士に任じられる。最初の著書「心の

写真」刊行し，{静岡青年会雑誌}を創刊し，上長尾青年会で聖書を講ずる。

帝国憲法公布 1889＝25歳：日本メソジスト教会教職候補に挙げられ，上京し，東洋英和学校神学部英語神学課程に入学，

帝国議会始・・・1890＝26歳：片腕もたのんできた弟が脚気で死去。その遺児をわが子同様に育てて行く。築地教会牧師に任命される

が，前年発布された教育勅語の影響で教勢は危機に瀕し，苦しみの淵に沈み，

大津事件・・・1891＝27歳：創刊された{護教}に参画。心身療養を兼ねて帰郷，家族や村民の姿に奮起，濃尾地震で救護活動，

大本教・・・1892＝28歳：次男が誕生。翌年につけて，東洋英和女学校の商議員(書記)。麻布教会牧師に任命される。

郡司千島探検 1893＝29歳：「エレミヤ論」を提出して，卒業。

日清戦争始・・・1894＝30歳：三男が誕生。北村透谷自殺の報。*按手札を受け，日本メソジスト教会教職(正格教師)となり，

日清戦争終・・・1895＝31歳：{聖書之友雑誌}主筆。カナダのビクトリア大学神学部からの奨学生1名の招請に，日本年会牧師会より選ば

れて，麻布教会を退職し，トロント市に留学。一人のメソジストの自己教育に感銘を受ける一方，

白馬会・・・1896＝32歳：日本人を異教徒と決めつける声に，初めて英語演説をするなど各所で熱弁。第1学年の試験結果に驚嘆した

総長パーウォッシュの声でB. D. (学位)を修める特典を与えられ，以後もパーウォッシュから多大の感化。

子規句歌革新 1898＝34歳：首席で卒業し，ビクトリア大学神学で長編論文「印度宗教の歴史的発達」を朗読。神学士となり，メソジ

スト教会総会に日本代議員として列席後，帰国。東洋英和学校神学部教授となり，築地教会牧師を兼任，

Bushidou・・・1899＝35歳：中央会堂牧師に転じる。メソジスト派の保守派からの排斥に抵抗するうち，

ビア国産化・・・1900＝36歳：文部省訓令に抗しきれなかった東洋英和学校が閉校になって，拠点を失う。駒込教会牧師を兼任し，

田中正造直訴 1901＝37歳：メソジスト派の機関誌{護教}の発行兼編集人となる。

日比谷公園・・・1903＝39歳：「ジョン・ウエスレー伝」を刊行，{護教}に掲載した記事をまとめた小冊子「宗教小観」で改めて世に問う。

日露戦争始・・・1904＝40歳：中央会堂・駒込教会を辞して，再び麻布教会牧師となり，青山学院神学部教授を兼ね，

日露戦争終・・・1905＝41歳：日露戦争終結に際しても，すぐに{護教}に「講和論」を執筆。

満鉄発足・・・1906＝42歳：義母が死去。カナダでのメソジスト教会総会に日本を代表して出席，日本のメソジスト派の三派合同を訴

えて感銘を与える。ビクトリア大学から神学博士の学位を受け，ヨーロッパ諸国・エジプトを遊歴して，

韓国反日暴動 1907＝43歳：*帰国。三派合同が実現するも，再び異端視され，人生で最も不愉快な日々に，ついに休職を願い出，麻布

教会牧師・{護教}主筆を辞して，青山学院神学部教授専任となる。「基督教大辞典」編集に着手，

アヲヲ創刊・・・1908＝44歳：「基督教安心論」を出すも聖書の講義は禁止され，以後，大辞典編集に専心，

伊藤博文暗殺 1909＝45歳：父が死去。

韓国併合・・・1910＝46歳：伯父が死去。

大逆事件判決 1911＝47歳：*ついに「基督教大辞典」が完成し出版，日本のキリスト教界の一大力作となる。{護教}編輯主任に復帰。

明治天皇没・・・1912＝48歳：

大正政変・・・1913＝49歳：来日したパーウォッシュ夫妻と再会喜ぶ。青山学院院長に就任すると，青山学院拡張案を作成し，

第一次大戦始 1914＝50歳：専心すべく，{護教}編輯主任を辞し，講演のため北海道・東北を巡回するも，病に倒れ，

21ヶ条要求・・・1915＝51歳：腸チフスのため入院，

民本主義・・・1916＝52歳：青山学院高等学部人文科・英語師範科・実業科の三科を設置。糖尿病の診断を受け，

ロシア革命・・・1917＝53歳：脳溢血で昏睡状態に陥り，御殿場で静養。

本格政党内閣 1918＝54歳：青山学院々長館・高等学部校舎(勝田館)が完成。

ペルシヤ条約・・・1919＝55歳：衰弱しきった身体で，なお青山学院拡張講演のため東海道を巡回し，妻と山陽・九州を巡るが，

大暴落・・・1920＝56歳：{護教}を{教界時報}と改題し，青山学院理事会で大学設置案を可決。

原敬首相暗殺 1921＝57歳：壺岸島病院に入院，*腸チフスで没した。

その他の主な著書は「基督教安心論」「生活と宗教」「ジョン・ウエスレー伝」。